

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- **自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。** 家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ケアセンターほほえみ
(ユニット名)	A 棟
所在地 (県・市町村名)	三種町
記入者名 (管理者)	佐藤 慶子
記入日	平成 20 年 10 月 15 日

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営上の方針や目標等を具体化し、介護従業者に日常的に話している。 理念「老いても安らぎと自信をもって自分らしく暮らしたい」	
2	○理念の共有と日々の取り組み  運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々生活の中で、利用者の心理状態を把握しつつ、個々の状況に合わせた活動及びケアの実践を行っており、すべての職員がグループホームほほえみの理念を述べる事ができ、常に運営理念の実現に取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関及び各棟内に、ほほえみ理念を掲示するほか、行事や運営推進会議などにおいて、地域の民生委員や家族に理解してもらえよう図っている。運営理念を利用案内時の説明文書及び施設内の見やすい場所に明示し、かつ利用者・家族・地域の人たちに説明している。	○  ・家族参加の施設行事や、地域住民協力参加によって理解をいただいている。 ・利用者のプライバシーに配慮したうえで、便りを発行している。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・施設の行事に協力参加をお願いする事で、顔見知りとなり、日常的な会話ができるようになっていく。 ・防災訓練等においても、自治会長をはじめ、多数の近隣の方に参加してもらっている。	○  ・今後も付き合いの中で、馴染みを深く交流できればと思っている。 ・行事以外にも、自治会からのボランティア（話し相手）等も受け入れたいと考えている。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、環境作り活動（プランター作り）やお祭りに参加し、地域との交流に努めている。	○  今後も地域の一員として、地域の活動や地域住民との交流に取り組んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の人たちに対して、日頃から関係を深める働きかけを行っている。 推進会議（自治会長・民生委員等）参加	○	家族会開催時、外部より講師を招き、地域の人たちにも参加を呼びかけ、認知症について理解していただく為の勉強会を行っている。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年2回自己評価を行うと同時に、さらに外部評価の中で指導された事項に関しても、部署で話し合いながら、それらを基にケアサービスの質の評価を職員に周知し、サービス改善に活かしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果を運営推進会で報告し、利用者及び家族の意見を取り入れながら、改善に向け具体的に取り組んでいる。		
9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・会議の中で、市町村担当者へ、事業所の事情やケアサービスの取り組みを報告し、必要に応じて相談している。 ・内部研修において、市町村担当者に講師として協力してもらっている。市町村との連絡を密に取り、相談及び会議・研修参加等の市町村協力を要請している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度研修会には参加した事があるが、現在、権利を必要とする利用者がいないため、活用にはいたっていない。利用者の権利擁護義務については、説明し契約書にもわかりやすく示し、かつ利用者・家族に説明同意を得ている。成年後見制度についての研修には参加したが、利用者としての該当者はいない。		
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ほぼえみ内部研修において講師を依頼し、高齢者虐待防止法に関する研修会を行っている。また、すべての職員に正しく理解してもらい、虐待のないケアを実践している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には、丁寧に説明し、同意を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には利用者にも参加してもらい、不満や要望を傾聴し、さらに、委員メンバーや民生委員・自治会長、担当ケアマネ等の意見も取り入れ運営に反映させている。	○  利用者の不安や意見等を察する努力をし、全職員で解決する。
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・定期的にホーム便りを発行している。 ・面会時には、利用者の暮らしぶりや健康状態を伝えている。 ・金銭管理については、預かり金明細を記入し、領収書を貼付し発行している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見・不満・苦情等においては、家族会及び年2回のアンケート調査の結果に基づき、改善を図りながら運営している。	○  今後も、家族会を定期的開催し、意見等を気軽に話せる機会を作る。
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員と管理者の意見交換（随時） ・経営者による職員との面談（年2回）	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の勤務体制や臨機応変な対応について、管理者と職員がよく話し合いながら調整している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者個々の状況を徹底把握することによってお互いの信頼関係が保たれ、また、入居者家族にも常に情報を提供できるなど安心して預けていただける為、管理者の異動は考えていない。他職員については、2ユニットではあるが玄関が共有となっており、A棟・B棟に分けられている為、利用者との馴染みも深く交流も多い。更に夜間は各棟一人で両棟で2人の勤務体制になっている事から、互いの協力も重要であり、利用者が常に不安がることのないよう相互の異動は必要時適宜に行う。しかし、他事業所への異動は最小限にしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設者研修、管理者リーダー研修、認知症実践研修、基礎研修済み 年間研修計画作成実施 新人研修、中堅研修（専門性・組織性）、指導者研修（専門性・組織性）、専門分野研修、相談援助研修、施設長研修など 内部研修（年4回） 外部より講師依頼した研修		
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	能代山本グループ協議会入会しており、運営者及び管理者交流会・連絡協議会参加、協議会企画研修会・事例検討会などに参加し情報交換している。また、近隣グループホームとの行事に参加し、相互訪問等の活動を通じサービスの質を向上している。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年二回、全職員から業務上について又個々の悩みを話せるような個人面談を実施している。また、年二回、全職員（夜勤者は除く）による親睦会を開催し、ストレス解消を図っている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎月、利用者に対する態度や業務実績状況など把握し個々に評価している。年1回、全職員の自己評価を実施している。研修等への積極的な参加により、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接で、本人が困っている事や不安な事をよく聴き、入所に際して少しでも安心してもらえるよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が事業所への希望や不安な事などをゆっくりと話す機会をつくり、信頼関係の構築へつなげている。	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談等には、本人や家族の状況や要望をもとに地域包括支援センターと連携しながら、本人に適したサービスが提供できるよう対応している。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には、本人や家族からホームを見学してもらったり、自宅や入所施設・病院を訪問し安心して入所できるよう努めている。入所後は、新しい生活の場で混乱を招かず徐々に馴染んでもらえるよう配慮している。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、本人の思いや不安・喜び等を知る事に努め、一緒に過ごす中で共に支えあえるような関係づくりに努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に利用者の生活状況を、面会時だけでなく電話で報告するなどして、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	普段の生活状況や本人の心身の状態などを、こまめに家族に報告している。また、可能な方には外出や外泊を勧めたり、施設行事に家族を招待したりして、本人と家族の関係が継続できるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人と手紙を交換したり、行きつけの床屋を入所後も利用してりして、馴染みの人や場所との関係が途切れないようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者との会話やケアを通して、その日の感情を把握し、利用者間の調和を図って楽しく過ごせるよう努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設へ移られたり、入院され契約が終了された方にも、訪問したり家族からの相談にもものっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33 ○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、一人ひとりの関わりを大切にし、言葉だけではなく行動や表情から思いをくみとるよう努めている。意思疎通が困難な方は、家族と話し合い本人が安心して生活できるよう検討している。		
34 ○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族・関係者などから、これまでの生活歴をききとっている。また面会時などにも、どのような生活であったのか聞き取り、把握に努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活のリズムや過ごし方を把握し、できることに視点をおいて、その人らしく自信をもって生活できるよう援助している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族から意見をきいたり、職員全員でカンファレンスをしたりして、本人がその人らしく過ごせるような介護計画となるよう努めている。		
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間が終了する前に、モニタリングして評価している。終了前に状態が変化した場合、カンファレンスをして現状にあった新たな介護計画を立案している。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録は、介護計画に沿った記録となるような形式を取り入れている。ケース記録を基にモニタリングするようにしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて、特別な外出の支援を行っている。 また、グループホームに看護師を配置し、24時間の健康管理に努めている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	利用者が地域の中で、安全で安心した暮らしができるよう、警察・消防・自治会・民生委員との連携をとり、相談や意見交換の機会を設けたり地域住民にはボランティアの協力を呼びかけている。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や体調に応じて、訪問美容サービスを受けている。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加されており、協力関係が得られている。		
43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、通院介助を行ったり訪問診察に来てもらったりと、本人の状態や家族の要望に応じて対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院の精神科医師より、認知症について適切な指示や助言をもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない時は、併設されているディサービスやショートステイの看護職員の協力も得る事ができる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された際は、家族と相談しながら医療関係に対して本人に関する情報の提供をしたり、家族とも情報を交換しながら早期退院できるよう努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向を確認しながら、できるだけ早い段階から対応について話し合うようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族と話し合い、利用者が安心して終末期を過ごしていけるよう取り組んでいる。急変した場合でも、すぐ対応して頂けるよう医療機関とも連携を図っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>これまでの暮らしが継続されるよう、本人の状況や習慣、支援内容等、詳しく情報提供し、不安や混乱を最小限におさえるよう努めている。</p>	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個々の性格などを把握したうえで、言葉遣いや対応には十分注意している。また面会時においても、個々のプライバシーを保護する為、面会の幅や頻度を家族に聞きながら調整するように心がけている。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日常生活の中で、一人ひとりの力に合わせて利用者自身で決定することができるよう働きかけている。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者一人ひとりが望んでいるペースに合わせ、見守りながらその人らしい生活が出来るよう心がけている。</p>	
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人が馴染みの理美容室や、カットボランティア・移動美容室等を定期的に利用している。行事や外出の際、その人らしい身だしなみやおしゃれが楽しめるよう支援している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握しながら味付けをしたり、苦手なメニューの時などは他の物を提供し、職員と利用者が一緒に楽しみながら食事をしている。		
55 ○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好物を理解し、一緒に買い物に行ったり、日常生活の中でそれらの嗜好物を楽しめるようにしている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	出来る限り排泄を自立させるべく、定期的に声かけをしながらトイレ誘導を行っている。排泄に失敗した場合も、自尊心を傷つけないよう手際よく配慮している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉入浴であることから、一人ひとりの希望された時間やタイミング、健康状態に合わせて入浴していただき、心身ともにリフレッシュされている。		
58 ○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転のないよう、日中、体を動かしたりしながら一人ひとりの生活リズムを整えるよう心がけている。その中で、体調や表情をよく観察しながら、いつでも気兼ねなく安心して休めるよう支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お願いできそうな仕事を頼み、行ってもらっている。また、花見や紅葉など、季節にあった遠出の外出も行い気分転換を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から預ったお金は事業所側で管理しているが、買い物と一緒に出かけた時などは、支払い時に本人と行動を共にし一緒に行っている。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望やその日の体調に合わせて、天気の良い日は近隣へ散歩に出かけたり、足湯へ出かけたりにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日には、本人にとって懐かしい場所や特別な楽しみ、行きたい所への外出支援を行っている。利用者、家族と相談しながら楽しい思い出となるよう計画を立て実施している。		
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にそって電話を利用したり、絵手紙を作成し家族等に送っている。家族や知人からの手紙も、本人に手渡し喜んでいただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に訪れた際は、快く接しながら対応し、いつでも気軽に訪れられるような雰囲気作りを心がけている。希望があれば、一緒に泊まってもらう等の配慮をしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を実施し、内容とその弊害を理解し、拘束のないケアに取り組んでいる。ミーティング等でも、日頃のケアを振り返り共有認識を図っている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	玄関にはチャイムセンサーが設置されているが、職員の見守りを徹底し、入居者が外へ外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声掛けをしたり見守る事で安全面に配慮し、自由な暮らしを支援している。		
67	○利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の様子がわかりやすい構造となっており、日中はホールにいる職員が見守りをしている。夜間は定時に巡回を行うとともに、居室が見通せる事務所で随時対応できるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や消毒薬などは、鍵のついたキャビネットに管理している。裁縫道具や刃物は、一人ひとりの状態に合わせて管理方法の取り決めをしている。		
69	○事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットを記録しており、職員全員が認識できるようにしている。万が一事故が発生した場合は、事故報告書を作成しており、職員全員で話し合い、対策を立てて事故が再発しないようにしている。		
70	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	日中・夜間帯の緊急時対応マニュアルを作成しており、職員全員が内容をきちんと理解している。また、消防署の協力を得て、普通救命講習を受講する。		
71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回、(日中・夜間)想定で、消防署の協力を得て、利用者と共に避難訓練を行っている。自治会長さんや近隣の協力体制も整っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクについて、職員全員で話し合い、その対応を家族に説明している。本人の状態変化に応じて、その都度見直している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	身体の状態の変化や異常の早期発見ができるよう、職員全員が入居者一人ひとりの普段の状況を把握している。変化等に気付いた際は、直ぐに看護師に報告し、対応している。		
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、入居者一人ひとりが使用する薬について、目的や用法・用量について理解しており、指示通りに服用できるよう支援している。		
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者一人ひとりに合わせて、繊維質の多い果物や乳製品を提供し、取り入れている。また、散歩や体操などで体を動かす機会を設けて、自然な排便ができるよう心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声掛けをし口腔ケアを行っている。また、就寝前には洗剤を使用した義歯の手入れを行い、口腔内の清潔が保たれるよう、入居者一人ひとりの力に合わせて支援している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとりの食事摂取量と水分摂取量を確認し、バイタル表に記入して職員全員が把握できるようにしている。摂取量が不足している時は、本人好みの物を提供し、摂取量が不足しないよう気をつけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	利用者の家族より同意してもらい、職員共に年一回インフルエンザ予防接種を受けている。また、感染症についてマニュアルを作成し、予防・対策をしている。		
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきんは、毎日漂白や殺菌消毒を行い、清潔を心がけている。冷蔵庫内もこまめに掃除を行い、食材の残りは状態を確認し、冷凍または処分するようにしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花や手作りの装飾品を飾って、明るい雰囲気のある玄関になるよう工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りつけを利用者と一緒に作成したり、心地よい音楽を流したりして、居心地良く、快適に過ごせる空間づくりに努めている。また、桜餅やおはぎ、干し柿を利用者と一緒に作っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファや椅子を置き、仲の良い利用者同士で楽しく会話したり、裏庭や玄関にも椅子を置いて、一人で過ごしたり少人数で過ごせるような居場所づくりをしている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、なるべく使い慣れた家具や生 活用品を持ち込んでもらい、安心感が得られるよ うにしている。		
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	空調・換気設置が整っており、外気温と大きな差 がないよう随時調節している。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	居室内は、その人の状態に合わせて家具や椅子の 配置を行い、安全に活動しやすい環境となるよう 努めている。共有スペースにおいても安全に生活 できるよう、随時、確認している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	個々の部屋名を花の名前で表し、手作りプレート を居室前に掲げたり、トイレにはわかりやすい目 印をつけている。また汚れのある場合は、すぐに 掃除したり、混乱や失敗を招くような物品を設置 しないようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	花壇や畑の一角にベンチを置いて、作業したり休 息しながら花や野菜を見て、楽しめるような環境 を作っている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①温泉入浴であることから、利用者希望に合わせ、入浴していただいている。
- ②ほほえみ農園での作業、リハビリに力を入れていると同時に、収穫の喜びを分かち合っている。
- ③併設されている他事業所との利用者同士の交流が図られている。
- ④誕生日には、本人にとって懐かしい場所や特別な楽しみ、行きたい所への外出支援を行っており、利用者や家族の方々にも喜ばれている。